



木村 久雄 議員(公明党議員会)

災害備蓄品について

Q 災害協定を締結していても、有事の急な対応は難しいものと考ええる。その点を考えると、今後については少量であっても液体ミルクを備蓄するべきと考ええるが、見解を伺いたい。

A 行政経営部長

災害協定において調達を考えているところですが、議員おっしゃるとおり、依頼をしてから調達ということになるので、入手までにある程度の時間が必要となります。その間の対応を踏まえると、ある程度の備蓄は必要であると考えています。災害協定で調達できるまでの間の分を、今後備蓄する方向で検討したいと考えています。

その他の質問
☆感染症対策について



鶴見 義明 議員(日本共産党議員団)

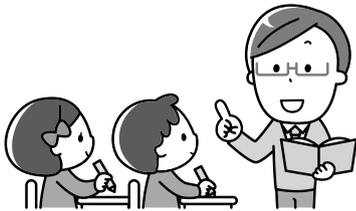
コロナ禍における教育行政について

Q 全国一律の休校要請で長期休校となったが、学校再開後の授業について、子供たちの授業の遅れが非常に気にかかっている。現在の授業の補足状況について伺いたい。

A 教育長

授業時数の不足を補うために、各学校では1日当たりの授業時間数を7時間にしたり、朝の活動の時間を活用したりして授業時間の時間数の増加を図っています。おおむね11月から12月には、この不足分を補うことができる見通しとなっています。

学習については、さわやかに対処しては、さわやか教育指導員等の活用をより積極的に進めて、子供たち一人ひとりに寄り添うきめ細やかな支援をこれまで以上に図っていききたいと考えています。



川嶋 嘉一 議員(政友みらい)

第2期佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について

Q 第2期佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標3、「結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえ、女性が輝く地域社会をつくる」の中で、重要業績評価指数として、女性の事業主を令和6年度には270人にすると掲げているが、その方策について伺いたい。

A 産業文化部長

本市は、若い女性の転出が顕著であることから、女性活躍に焦点を絞り、女性事業主をその重要業績評価指標としたところでは、

目標達成に向けては、女性が起業するために必要な専門知識の習得、先輩女性経営者との交流や意見交換ができる機会を提供することなどにより、起業しやすい環境の整備や、家事や子育てなどの両立に対する不安感の払拭を図っていききたいと考えています。

その他の質問
☆本市の今後の教育行政について

